

## 情報モラル教育 いわき市立藤原小学校

キーワード：個人情報、コミュニケーション、自己マネジメント、家庭との連携

### I 研究について

#### 1 研究主題

情報化の進展に対応した教育を通して、  
情報を正しく安全に利用するための判断力を養い、  
主体的に情報を選択・活用する子どもの育成

#### 2 主題設定の理由

今日、情報化社会の進展により、子どもたちにとってもインターネット機器は身近なものとなっている。それらの機器は非常に利便性が高いが、使い方によっては危険なツールになることもあり、子どもが巻き込まれる事件も多い。

そこで本校では、子どもたちが情報社会の特性を理解し、柔軟に対応しながら、適正な活動ができる考え方や態度を身に付けられるようにすることが重要であると考えます。そして、それらを基にインターネット上での様々な事象について判断し、情報・情報機器と上手に付き合うことができる子どもの育成を目指していく。

#### 3 本校の実態と課題

##### (1) 児童の実態（全校児童146人）

- ・ネット・SNSを利用している児童が138人中119人。学年問わず、ほとんどの児童が利用している。
- ・利用時間は平日は「1時間以上2時間未満」、休日になると「2時間以上3時間未満」の利用が多い。学年が上がるにつれて、それよりも長い時間利用する傾向がある。
- ・家庭のルールがあるにも関わらず、「守らないときもある」「守っていない」と答えた児童が半数以上もいる。
- ・フィルタリング機能を利用していると答えた家庭は68家庭と、全校で半数にも満たない。

##### (2) 教職員と教育課程

- ・教育課程上、情報モラル教育は学級活動や総合的な学習の時間、道徳科の時間に位置付けられているが、各学年での内容が明確でないため、指導がしにくい。
- ・指導方法（授業の流れや教材等）が分からず、指導に困っている。

#### 4 研究内容に迫るための手立て

##### (1) 自分事として捉えさせるための授業展開の工夫

- ① 児童の実態に合わせた題材の工夫
- ② 具体的な場面を示す資料の活用
- ③ これまでの自分を振り返ることができる機会の工夫

##### (2) 今後の生活を生かすための振り返りの工夫

- ① 人権を尊重したコミュニケーションについて考えることができる機会の工夫
- ② 今後の情報・情報機器の利用の仕方について、自己選択・自己決定できる機会の工夫

## Ⅱ 研究の実際について

### 1 校内での実践

#### (1) 校長による授業、講演会

##### ① 児童向けの授業

- ・ 3～6年生で実施。
- ・ ネットとの上手な付き合い方について考えた。

あ 相手のことを考える子  
や 役に立つ使い方を考える子  
つ 使い方をふり返る子  
る ルールを考える子  
こ 困った時には相談できる子



##### ② 保護者向けの講演会

- ・ 授業参観終了後、保護者に向けて実施。
- ・ 「メディアリテラシーと保護者の役割」という演題で講演会を行った。本校の児童の実態について伝え、保護者としての関わりについてお願いした。

持たせるなら・使わせるなら親の責任で。  
情報発信は責任を持って。  
1日の時間を管理すること。

#### (2) 各学級の実践

- ・ 第1学年 学級活動(2)「それ おしえてもいいの？」  
→ 個人情報の大切さについて知り、自分や身近な人々の  
個人情報を守ろうとする態度を育てる。



- ・第3学年 学級活動(2)「気持ちを伝え合おう」  
→同じ言葉でも人によって受け取り方が違うことを知り、相手の気持ちを思いやることの大切さについて捉えることができる。
- ・第4学年 学級活動(2)「個人情報について考えよう」  
→インターネット上で見知らぬ人とやり取りすることの危険性や、写真や個人情報を安易に提供することの危険性を理解させ、安全にインターネットを利用しようとする態度を身に付けさせる。
- ・第6学年 学級活動(2)「インターネットを上手に使おう」  
→これまでの自分のネット利用について振り返り、今後も情報や情報機器を正しく安全に利用しようとする態度を育てる。
- ・特別支援学級 「情報モラルかるたをつくろう」  
→各学年で学習した情報モラル教育の内容を使いながらかるた作りを行うことで、より関心を持たせる。



## 2 校内授業研究会での実践

### (1) 第2学年 学級活動(2)「ほんとうに 教えてもいいの？」

ねらい：個人情報の大切さについて知り、自分や身近な人々の個人情報を守ろうとする態度を育てる。

学習過程：①本時のめあてをつかむ。

このようなアンケートをもらったら、どうしたらいいかな？

児童の興味を引くアンケートを提示することにより、一人一人が身近な問題として考えられるようにする。(手立て)

- ②自分だったらどうするかを考え、話し合う。
- ③アンケートを投函した後どうなったかを知り、話し合う。
- ④個人情報について話し合う。
- ⑤学習を振り返り、気を付けることをまとめる。

個人情報の扱い方について、分かったことや気を付けたいことをワークシートにまとめさせることで児童の意識を高め、今後の生活で実践できるようにする。(手立て)

成 果：○低学年に合った、生活に密着した教材だった。

○模擬体験により、児童は自分に身近なこととして捉えることができた。

○個人情報、時と場合によっては伝えなければならないこともあることにも触れていて良かった。

課 題：●低学年での情報モラル教育の扱いが難しい。(低学年という発達段階で、どのような内容を、どのような教材を使用して指導していけばよいか悩み、指導しにくかった。)



## (2) 第5学年 学級活動 (2)「楽しいコミュニケーション」

ね ら い：自分と相手の受け取り方に違いがあることや、ネット上では「誤解」が生まれやすいことに気付き、それらを踏まえた上で自分の気持ちを上手に相手に伝える方法を考えられるようにする。

学習過程：①本時のめあてをつかむ。

楽しいコミュニケーションをとるためには、どんなことに気を付ければよいか考えよう。

②「言われたらいやな言葉カード」を並べ、気付いたことを話し合う。

「言われたらいやな言葉カード」を使用し、自分と友達では言葉の受け取り方が違うことを実感させ、一人一人が自分自身の問題として考えられるようにする。(手立て)

③ネット上で気を付けなければいけないことを話し合う。

気付いたことをグループや全体で共有し、分かったことや気を付けたいことをワークシートにまとめさせることで児童の意識を高め、今後の生活で実践できるようにする。(手立て)

④学習を振り返る。

成 果：○高学年ということもあり、身近な SNS (LINE) の教材を使用したことで、自分事として捉えることができた。

○お互いの考えを交流することで、友達との考え方のずれや違いを感じることができた。

課 題：●相手の受け止め方を考えるということをしかりとおさえ、題材である「楽しいコミュニケーション」につなげることができると良かった。



### (3) 研究協議会の様子

【指導助言】 医療創生大学心理学部教授 中尾剛 様

- ・今後の情報化社会において、インターネットを使用する人のモラル、判断力、リスクの想像力が大切になってくる。
- ・目的に応じて、最適なメディアを選ぶことができるようにしたい。(直接会話をすることの良さにも触れる。)
- ・情報モラル教育は家庭との連携が重要である。学校での情報モラル教育を通して、親と情報共有しながら、メディアの適した使い方を意識付けていく必要がある。
- ・情報モラル教育は、全ての教育活動の中に取り入れて、効果的に指導していく必要がある。



### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

○児童のインターネットの利用状況について知り、上手な付き合い方について改めて考える機会になった。

○どの学年でも児童の実態を踏まえた授業を考え、効果的な指導ができた。

○授業を見合ったり協力して教材研究を行ったりしたことで、自信をもって指導することができた。

○講演会や持ち帰りのワークシート等、家庭と連携した教育を行うことで、ネットの使い方について親も子も一緒に考えさせることができた。

#### 2 課題

●学級活動や道徳科だけではなく、他教科と連携させながら指導していく必要がある。

●どの領域をどの発達段階で扱うのかを明確に示し、漏れがないよう確実に授業を実施していく必要がある。

●家庭との連携がとても重要である。今後も積極的に保護者を巻き込み、子どもたちをみんなで支援していく体制をとっていく。

### Ⅲ 参考文献・参考 URL

文部科学省.「情報モラルに関する指導の充実に資する児童生徒向けの動画教材」

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm) (参照 2023-03-01)

一般財団法人 LINE みらい財団

<https://line-mirai.org/ja/activities/activities-moral> (参照 2023-03-01)

今度珠美・稲垣俊介 (2017) .「スマホ世代の子どものための主体的・対話的で深い学びに向かう情報モラルの授業」.日本標準.

今度珠美・稲垣俊介 (2017) .「スマホ世代の子どものための情報活用能力を育む情報モラルの授業 2.0」.日本標準.

